



建荷協長野県支部通信

第4巻 第2号

発行日 平成28年8月3日

1 地域協議会会長会議開催される

6月16日、ホテル国際21において、平成28年度地域協議会会長会議が開催され、各地域協議会の会長が出席されました。

会議では、昨年度の巡回指導実施結果が、当支部と全国について報告され、地域協議会設置要綱、各実施要領の変更点について説明がなされました。

主な変更点は、①本部の巡回指導と当支部地域協議会が自主的に行う特自検のパトロールとを明確に区別し、地域協議会は巡回指導員と連携して適正な特自検の実施を指導することとし、②特自検パトロールに参加する者には、支部において障害総合保険に加入することとしました。

パトロールを行う事業内検査事業場、非会員検査業については支部事務局が

選定セットし、各地域協議会が実施いたします。

今後、各地域協議会は総会を開き、パトロールを行う事業場や配分を決め、10～11月の強調月間を中心にパトロールを実施することとなります。

本部の要請により地域協議会の活動も変化を余儀なくされておりますが、地域の自主的な活動を基盤とする適正な特自検の実施指導を通じて、労働災害の未然防止にさらに貢献して行きたいと考えております。



長野市役所解体工事

2 研修委員会開催される

7月22日、油やにおいて、第2回の研修委員会が開催されました。今回は、新規に委嘱された講師のうち2名の方が出席されました。

まず、平成28年度の研修進捗状況が報告され、来年度の研修計画を大まかに見積もりました。

次に、リスクアセスメント検討小委員会から「危険の見える化(リスクアセスメント)平成28年度版」が配布され、中身は充実したものの参加人数が少ないことについて検討されました。①広く知らせることが重要であること(役員会でも配布する)、

②コンパクト化して導入しやすくする、③能力向上教育において1時間くらいの時間をとって説明する等の意見が出され、今後さらに研究向上して行くことを確認しました。

研修講師の定年制により、平成29年度に委嘱されない講師が4名出てしまうため、研修の持続性を安定的に確保するためさらに講師推薦を行うことを確認しました。

また、記録表記入方法等の課題についても検討し、研修委員会としての統一見解を明らかにしました。



グリスポンプでツースのピン抜き:

高圧グリスポンプの力を制作シリンダーへ送り込み、ピストンに圧力を加えることにより、ツース取り付けピンを動かす力とし、過大な力でピン打撃する作業を軽減して被災リスクを低減した。(平成28年考案賞金賞:本部ホームページもご覧ください)

目次:

地域協議会開催される	1
研修委員会開催される	2
研修事業順調に進行	3
事務局だより	4

ハイライト:

- 猛暑が続きます。熱中症にはくれぐれも注意しましょう。
- 全国労働衛生週間が、9月1日～30日までを準備月間、10月1日～7日までを本週間として実施されます。労働衛生週間実施要綱(当支部ホームページ参照)をご参照の上、各社お取り組みをお願いします。

フロン排出抑制法の改正（平成27年4月）により、建設機械等のエアコン（第一種特定製品）の管理者（＝所有者）には、3か月に1回以上の簡易点検が義務付けられています。建荷協でも簡易点検表を作成・提供しておりますが、どこをどのように点検すればよいかわからないという意見が寄せられています。

そこで、「フロン排出抑制法の概要」と「主要製品の点検箇所と項目」について、整理し、当支部のホームページ（<http://www.sacl-nagano.jp>）に掲載しています。

顧客等の問い合わせに対しては、これをダウンロードしてご提供いただくようお願いいたします。

安心して無防備になると行動に影響し、それが「危険を招く」ということにもなる

Q&Aコーナー

Q:顧客から、フォークリフトのバックミラーが壊れてガラスが飛散する恐れがあるため、全てに飛散防止シートを貼られている。当方としては、バックミラーは法定（構造規格）の要求事項ではないので取り外したいが如何？

A:確かに法令（構造規格）に違反するものではないが、後方の安全確認を補うために取り付けられているものであり、これを取り外すことは、法令を理由に安全水準を引き下げる行為ととられる恐れがあります。

安全配慮義務に違背する可能性があり、刑事上の罰則の適用はなくても、民事上の賠償責任の可能性はあります。

これらのことを考慮の上対処されたいと思います。

3 研修事業順調に推進

6月21日～23日、高所作業車検査業検査者資格取得研修が長野地域



職業訓練センターで行われました。受講者は29名で、定員ぎりぎりの盛況でした。写真は実技研修の様です。この後、各事業所での6か月の検査実習に入りました。

6月29日、クレーン機能付油圧ショベル安全教育が長野地域職業訓練セ



ンターで行われました。受講者は16名でやや少なめでした。写真は小室講師の講義の様です。

7月5日～7日、フォークリフトの検査業検査者資格取得研修が、長野地域職業訓練センターで行われました。受講者は21名で、昨年よりはやや少なめでした。

5 事務局だより

☞（前号からの続き）

ところで、安全とはどのような状況を言うのだろうか。安全の反対語である「危険」が全くないことだとすると、それは現実世界ではあり得ない。実際、安全は「絶対に安全」だとか、「100%安全」という意味ではなく、多少の危険はあるが許される範囲にある場合に「安全」と言われている。

また、時間の経過や環境の変化、人間や機械等が動くことでも、「安全の程度」は変化する。

一方、安心はどうだろう。

たが、新規実習講師を迎えて充実した実習となりました。写真は実習の様です。この後、各事業所での6か月の検査実習に入りました。



7月14日、整地・運搬積込用・掘削用及び解体用機械の能力向上教育が、ポリテクセンター松本で行われました。受講者は50人、定員満席で盛況でした。

7月20日、検査記録表作成コースの実務研修が、ポリテクセンター松本で行われました。受講者は21人でした。



写真は松本講師の講義の様です。

7月28日、危険の見える化(リスクアセスメント)セミナーが、長野地域職業訓練センターで行われました。参加者は4人で小規模でしたが、「内容は分り易かった」というご意見をいただいた一方、「実際に導入するには課題がある」とのご意見をいただきました。

「人任せにして安心したい」という気持ちは誰でも持っているが、安心して無防備になると行動に影響し、それが「危険を招く」ということにもなる。「不安」を解消するために「安心」を求めるが、それが命取りになることがあることは東日本大震災の際に思い知らされた。

また、マスコミの報道や広報・宣伝により不安や危険が助長されたり、安全や安心が過度に強調される時代でもある。

「人任せにする」のではなく、自分が主体的に関わり判断することにより「安全の程度」を上げて行くことが必要だ。